

府中市住生活基本計画 第 1 回策定委員会 振り返り

	委員意見	発言等のポイント
論点 1 「子どもを産み育てやすい住まい」	<ul style="list-style-type: none"> ●府中市の方針では子育て世帯は小学生以下をターゲットにしているのか？中学校や高等学校の教育を支える体制や環境を作っていないと選ばれる市にならないのでは。【吉田委員】 ●ターゲットによって住生活基本計画の方向性が変わるが、全方向に向けることも大事である。また、府中市の場合、子育て世帯や高齢者になるが、どの層を重点的なターゲットにするかを考えることも大事である。【藤田委員】 ●結婚当初、市営住宅に入居することができなかった。【中山委員】 ●子育てに配慮した民間住宅を探しやすいことが望ましい。【中山委員】 	<p>①未就学児や小学生だけではなく中学生や高校生まで幅広い層の子育て世帯に選ばれる体制や環境づくりなど、ターゲットを見定めて検討を進めることが重要である。</p> <p>②子育て世帯向けの住まいの確保について、公営住宅の入居要件や民間賃貸住宅の探しやすさなど、官民を問わない幅広い支援が必要である。</p>
論点 2 「住宅セーフティネット機能」	<ul style="list-style-type: none"> ●府中市内の公営住宅は老朽化が進み、最近のライフスタイルを鑑みると古い住宅は望まれない傾向がある。【岡辺会長】 ●住宅が不足する時代の公営住宅は、同じ間取りの小さい部屋がたくさんつくられていたが、今後は様々な住まい方をどのように束ねるかが重要となる。【岡辺会長】 →1DK や2DK の住居のみをつくると、入居者が単身世帯や高齢者の割合が高くなり、団地コミュニティが偏るため、広い住居をつくり、一般に募集をかけることで持続的なコミュニティの形成を図る。【川島委員】 ●公営住宅の住宅環境の向上に向けてかつては住宅のみの整備であったが、医療や高齢者福祉などと併せて整備することが求められる。【岡辺会長】 ●公営住宅でも壁を取り払って、住居を拡張する事例もみられるなど、快適な住宅をどのように提供するかを考えられるようになった。【宮脇委員】 ●入居希望者が少ないということであるが、住宅困窮者が公営住宅に応募するにあたって、何が障害となっているのか検討すべきである。【岡辺会長】 ●持ち家の住民は、住宅を処分した後でなければ、市営住宅に入ることが出来ないため、自然災害などで建物の一部が倒壊していても、住み続けるしかない事例が多い。【伊達委員】 ●民間住宅においても、住み方やライフスタイルの変化に対応したものが建てられるようになってきている。【宮脇委員】 ●住宅を求める低所得者が、劣悪な生活環境に引っ越さざるを得ない事例は多い。【山崎委員】 ●介護スタイルは年々変化しており、単身世帯などの孤立を防ぐ支援が増えているが、家族や隣近所との関係が希薄になると、孤立してしまう。住生活を取り扱う場合、生活支援の視点も重要である。【木下委員】 ●「育児の悩みの軽減」や「気軽に支援を受けることができる体制」を整備するためには、ハードのみでは実現できない。福祉部局との連携も必要である。【岡部会長代理】 ●公営住宅にて精神疾患や子どもの問題など、住宅に関する周辺とのトラブルが生じた場合は、管理する市に情報が集められるのではないかと。福祉部局と連携し、拠点の整備に加えて、支援体制を構築する必要がある。【岡部会長代理】 ●高齢者や障がい者、外国人のように見えにくいバリアを抱える人々に対して、数年前までは住宅と福祉で話し合う必要はなかったが、住宅部局と福祉部局が実現するための予算などの問題も含めて検討していく必要がある。【村上委員】 【福祉と住宅支援を組み合わせた府中市の取り組み】 →府中市北市民病院(上下地区)の4階にサービス付き高齢者向け住宅(17世帯)を整備した。 【事務局】 →子育てや介護、保健など総合的な機能を持つ地域包括ケア拠点施設を整備した上下地域共生交流センター(旧三玉医院)の設立。【村上委員】 ●建物だけではなく社会システムのような仕組みも必要になる。これまでと全く違うものになる。【岡辺会長】 ●核家族化が進行し、独立した生活を営む人が地域の中で多様に出てきている中で、困りごとをどのように処理するかが求められている。【岡辺会長】 ●民間賃貸住宅は広さよりも低価格を望む市民の受け皿となっている。民間住宅の空き室の有無や質も研究することが望ましい。【岡辺会長】 ●府中市内に民間賃貸住宅が多いため、空き室や棟数などの現況の把握が必要ではないか。【桐島委員】 ●市内に民間賃貸住宅もたくさんあるが、建築後40年以上の古いものが多く、設備も古いため、住環境が劣悪なものばかりが残っている。【宮脇委員】 	<p>①ライフスタイルの変化に応じた公営住宅の新しい在り方について検討する必要がある。</p> <p>②ハードの整備だけではなく住宅部門と福祉部門が連携した生活支援サービス内容や支援体制の構築について実現方法も含めて検討していく必要がある。</p> <p>③民間賃貸住宅は住宅セーフティネットになりうるため、民間賃貸住宅の空き室の戸数や質の現状も把握することが望ましい。</p>

	委員意見	発言等のポイント
<p>論点 3</p> <p>「空き家の対策」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●府中市内には民間住宅が多くあるが使用不可能な空き家も多い。地方都市の課題ではあるが、使える資産にする方法を考えないといけない。【岡辺委員】 ●DIY が出来るような物件の仲介や補助などにより、能動的に家自体を楽しんで生きている方をターゲットにしても良いのではないか。【吉田委員】 	<p>①空き家の活用方法について検討が必要である。</p>
<p>論点 4</p> <p>「脱炭素社会と災害に備えた住宅ストック」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●田舎の住宅は敷地面積が広く、段差が大きい特徴がある。しかし、高齢者が住み続けるためにはバリアフリーの改修が必要であるが、手すりの取り付けも難しい住宅も多く、取り壊し、建て替えを行うことが多い。【伊達委員】 	<p>①戸建て住宅を長く住み続けるためには、バリアフリー改修や省エネ改修など行い、質が高い住宅ストックとすることが必要である。</p>
<p>論点 5</p> <p>「ゆとりと魅力ある住まいの環境」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●住宅が望ましい生活環境に合致していない問題がみられる。【皐月委員】 ●歳をとるにつれて坂道の上下りが困難となり、近隣サロン等へ行くことができないなど、人と繋がることができない住環境が課題となっている。【皐月委員】 ●高齢者には住みにくいが、車を運転することができる若者にとっては広々としており DIY ができて住みやすいなど、府中市内のストックと市民が上手くマッチングすることが出来ていない問題がある。【村上委員】 ●近隣市町と比較されて選ばれるのではなく、数ある地域から府中市の特化した魅力に気が付いて、選ばれるようにならなければならない。それが府中市を能動的に好きになってもらうことにつながるのではないか。【吉田委員】 ●府中市の魅力を「芦田川」、「お好み焼き」というように、キーワードを絞る必要がある。【幸委員】 ●転居する際の置かれている立場によってニーズは変化する。 <ul style="list-style-type: none"> →家族帯同：子どもの通学路の安全性、運転しやすい道か、道は暗くないか →子どもの成長に伴い：部屋の広さ・Wi-Fi の有無等の基準 →単身の場合：職場やスーパーからの近さ →高齢者の場合：坂道の有無・病院の近さが基準【藤田委員】 	<p>①加齢などによる住宅と生活環境のミスマッチが問題になっている。住宅と生活環境のミスマッチを解消するような施策の検討が必要である。</p> <p>②府中市の特化した魅力に気が付いて住んでもらえるようにならなければならない。</p>
<p>論点 6</p> <p>「ライフスタイルと住生活産業の発展」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●府中市はものづくりの企業が多いため寮や社宅が多いが、企業の移転などにより人口が減少している。市の人口を増加させるには、働く場所の確保が必要ではないか。広島県が移住先ランキングで日本一になったのは、働く場所や住環境の確保に努めた結果である。広島県の事例を研究し、傾向を捉えたうえで府中市に活かしてほしい。【宮脇委員】 ●市内に事業所を有する株式会社北川鉄工所は日本一辞めない会社といわれている。このような企業の PR や「働く場所」についても計画に盛り込んでほしい。【宮脇委員】 ●府中は働く場所も多かったが、働く場所は減少しており、どうしたら戻ってきてくれるかを考える必要がある。【宮脇委員】 ●府中市の土地は昔は高かった(1坪 100 万円)が、現在は平地でも 1坪 10 万円を切る土地が出るほど安くなっている。【宮脇委員】 	<p>①移住者確保に向けて働く場の確保につながる施策の検討が必要である。</p> <p>②働く場の創出に合わせて、住む場づくりが必要ではないか。</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●府中地区と上下地区では住環境が全く違うことから、総合的に計画する部分と府中地区と上下地区に分けて計画する部分が必要になる。【藤田委員】 ●アンケートの項目に、働く場所について追加してほしい。【宮脇委員】 ●府中市で働いているが住まいが府中市以外の方を対象にしたアンケート調査を実施し、「なぜ府中市に住んでいないのか」「どうしたら府中市に住んでもらえるか」なども把握する必要がある。【藤田委員】 ●昔から子育て環境は改善されてきているので、なぜ住んでもらえないか把握したうえでさらに改善していき、府中市に住みたい人が増えてほしい。【和田委員】 ●アンケートは府中市の魅力を見つけ出せる設問にする必要がある。【岡辺会長】 ●府中市が積極的に実施している施策の情報を出していく必要がある。【岡辺会長、宮脇委員】 ●アンケートでは府中市で何が足りないかではなく、どうすれば府中市らしい計画になるかという視点で実施して欲しい。【岡辺会長】 	<p>①総合的に計画する部分と府中地区や上下地区に分けて計画する部分が必要である。</p> <p>②府中市外に住む人がどうしたら府中市内に移住してもらえるか把握する必要がある。</p> <p>③府中市が既に実施している施策を計画に盛り込み、府中市らしい計画を策定する必要がある。</p>